

十一月二日内閣長及總理列立上奏三方り總理

十一月一日連絡會議情況

議 題

上奏資料

(閣長及總理列立)

一、國策遂行上左記ノ中何レヲ採用スヘキヤ

(1) 戰爭ヲ極力避ケ臥薪嘗膽ス

(2) 開戰ヲ直チニ決意シ政戰諸施策ヲ此ノ方針ニ集中ス

(今日開戰ノ御決意ヲ願ヒ直チニ之ニ基キ準備ヲ進メ外交ハ

之ニ期待ヲ措カス 單ニ軍事行動ノ秘匿ヲ主トス)

(3) 開戰決意ノ下ニ作戰準備ヲ完整スルト共ニ外交施策ヲ續行ス

(戰爭ノ御決意ノ下ニ作戰準備ヲ進ム (展開位置ニ) 此間外

交交渉ハ軍ノ作戰準備行為ヲ活用シ且帝國ノ最小限度ノ要

求ヲ達成セハ戰爭準備ヲ打切り目的ヲ達セサレハ直チニ開

戦ニ入ル)

研究進行

一、總理大臣

右題目以外ニ尙研究スヘキ事項アラハ承知シ度シ

軍令部部長

外交交渉ノミニ依リ解決セントスル案

大蔵大臣

北樺太ノ油田ヲ買収シ自存ヲ完ウセントスル案

右兩提案ハ(1)ノ臥薪嘗膽ノ議題ニ包含セラルルモノニシテ特ニ
提記スルノ要ナキモノト決セラル即チ外交交渉ノミニ依リテ日

米關係ヲ調整スルニハ帝國ノ主權ヲ限度以上ニ讓步セサルヘカ
ラサルヲ以テ最も不利ナル臥薪嘗膽ノ場合ニシテ斷シテ採用ス
ヘカラサルモノナリ又北樺太ノ石油ノ取得ハ北樺太自体ノ買収
油田ノミニ買収、或ハ石油探掘權ノミニ買収等アルモ相當ノ困
難アリ

假令之ニ成功スルモ年額百五十万 程度ヲ出テスシテ帝國ノ需
要ヲ充スニ足ラス

而モ米國ノ干渉アルヲ予期セラル

一、臥薪嘗膽ノ検討

(1)日本カ限度以上ノ讓步シテ日米妥協シ一應日米國交調整シタ
ル場合ノ臥薪嘗膽スル場合ニ就テハ既ニ議題研究ニ於テ論議

セラレタル如ク斷シテ採用スヘカラサルモノトシテ即決ス
(蘆相、外相等ニ強ク否定ス)

(2) 外交交渉不調ノ儘現狀ヲ以テ臥薪嘗膽スル場合

軍令部部長

最下策ナリ即チ米國ハ逐日軍備ヲ増強シ包圍陣ヲ強化シ授將
授「ソ」ヲ増進シ而モ帝國ハギリ貧ト成リ常ニ和戰ノ機ハ米
國ノ掌中ニ存スルコトトナリ帝國國防ハ非常ニ危險ナリ
根本的ニ今日理解認識セラレ度キコトハ帝國トシテ對米戰爭
ノ戰機ハ今日ニアリ此機ヲ失センカ開戰ノ機ヲ米國ノ手ニ委
ネ再ヒ我ニ歸ラサルコトナリ

大藏大臣

南方作戦開始ノ機ハ我ニ在リトスルモ決戰ノ機ハ依然米國ノ
掌中ニ在リ蓋シ米國主力艦隊ハ速ク退避シテ機ノ至ルヲ待テ
ハナリ勿論南方輜略要點ハ我カ有ニ歸シアルモ二年後即チ米
國カ決戰ヲ挑ム時期ニ至レハ我ハ軍需其他ニ於テ幾多困難ヲ
生スルニ至ルヘク推算ナキモノノ如シ

軍令部部長

軍令部トシテハ日米戰爭ヲ極力避クヘキモノトシテ昭和十五
年一月ノ御前會議ニ於テモ 前總長宮殿下ヨリ「三國同盟締
結セラルルモ日米戰爭ハ成ルヘク避クル機施策スルコト」ヲ
希望條項トシテ發言セラレアリ

其後世界情勢ノ推移、政府ノ施策ハ現下ノ事態ヲ招来シ「ノ

1
一は九の
（昭和十五年七月二日）

ツビキ」ナラヌモノトナリ今ヤ軍令部ハ日米戦争已ムナシト
覺悟セル次第ナリ一度覺悟ノ上ハ萬全ノ策ヲ講シアリ

日米戦争ノ見送ニ就テハ先日モ述ヘタル如ク若シ敵カ短期戦
ヲ企圖スル場合ハ我ノ最モ希望スル所ニシテ之ヲ遊撃シ勝算
我ニ在リト確信ス然レトモ之ヲ以テ戦争ノ決トハナラサルヘ
ク戦争ハ十中八、九ハ長期戦トナルヘシ

即チ

第一段 二年間、長期戦態勢ノ基礎ヲ確立シ此間ハ確算アリ
第二段 三年以降ハ海軍勢力ノ保持増進、有形無形ノ國家總
力、世界情勢ノ推移ニ依リ決セラルルモノニシテ予

断テ許サス

總理大臣

日米戦争ノ回避ニ就テハ政府モ努力シ來レルモ國際情勢ノ推
移ハ七月ニ至リ「日米開戦ヲ辭セス」トノ御決定ニ至リ更ニ
今日ニ及ヘルモノニシテ政府ノ努力ハ依然變化ナキモノナル
ニ付一言ス

外相、蔵相及軍令部總長トノ間ニ三年以後ノ戦争見送ニ就テ
慎重論議ヲ重ネタルモ三年以後ノ状況ニ就テハ不安定要素漸
録シアルヲ以テ確定的決定ニ至ラス結局南太平洋上ノ戰略要
點ヲ全部我手ニ收メアルヲ以テ兵力劣勢ナルモ各種作戰考案
ヲ施シ得ルヲ以テ無爲ニシテ二年ヲ經過シタル場合ヨリモ有
利ナルコトハ明瞭トナレリ

外務大臣

國際情勢ノ判斷ニ於テモ日米戰爭ハ長期戰ト化スル公算大ナリ
英國カ屈服スル場合ハ世界情勢ニ非常ナル變化生スヘシ
但シ獨逸ノ英本土屈服ハ目下見透難シ又英本土ノ封鎖作戰ニ
ハ日本モ協力シ得ヘキモ之ニ依リ英國ヲ屈服シ得ルヤ疑問ナリ
又獨逸ノ我カ南方作戰ニ對スル協力ハ地理的及海軍力ニ見テ
大ナル期待ヲ懸クルヲ得ス

從テ國際情勢ニ於テモ幾分良クナルカトハ考ヘラルルモ非常
ニ良クナルトハ考ヘラレス更ニ國民志氣ノ問題及日米資源ノ
差等ヲ考フル時長期戰ノ將來ニハ移多ノ疑問アリ

參謀總長

我カ南方作戰ニ依リ蘭印、比島、シンガポール等ヲ占領スル結果
英米ノ支援ニ依リ抗戰ヲ續ケアル支那ハ其支援路ヲ遮斷セラ
レ抗戰ヲ斷念スヘク又「ソ」聯ニ對シテ冬季ヲ利用シテ南方
作戰間北方ノ脅威ヲ緩和シ得 此間其ノ弱体化ヲ生セシメ來春

以後適當ナル措置ヲ講シ得ルヲ以テ戦局上大ナル考慮ヲ要セス

大藏大臣

南方作戰ニ於テ二年間ハ確信アリ三年以後ハ不確實ナリトセ
ハ若シ日本海軍カ米國海軍ニ敗レタル場合ハ南方資源ヲ確保
スルヲ得サルコトトナルヘク又支那ハ二年經過スルモ必スシ
モ息ノ根ヲ斷ツコト困難ナルヘシ二年間ノ見透出來ルナラハ
三年以降ノコトモ大休ノ見透付クヘシ

軍令部總長

責任ヲ以テ御答ヘシ得ルコトハ前述ノ通りナリト繰返ス。

以上ノ次第ニテ、總理ハ左ノ断定ヲ一應下セリ。

二年ハ確實ナリ

三年以降ハ不明ナリ

統帥部カ責任ヲ以テ言明シ得ル限度ハ以上ノ通りト了解ス

外相

米國ハ軍備以外ハ殆ント先産擴充ヲ見ラレサルヲ以テ米國ヨリ戰爭ヲ仕懸タルコトナカルヘシ。又歐洲戰爭後各國カ連合シテ對日壓迫ヲ加ヘントスルカ如キハ倍論ニシテ取ルニ足ラス。従テ日本カ臥薪嘗膽スル場合米國カ直チニ日本ヲ攻撃シ來ル

モノトハ思ハレス

作戰の研究ヲ一應打切り別紙ノ通研究結果ヲ報告シ臥薪嘗膽ノ

不可能ナル所以ヲ明カニス

物資の研究

總理

第二、第三案ノ討議ニ入ルニ先立チ近日來懸案トナリアル鋼

鐵ノ問題ヲ明確ニ致シ度

鈴木總裁

詳細説明シテ別紙ノ結論ニ達シ陸海軍共完全ニ意見一致ス

附言

今因ノ連絡懇談會ニ於テ石油鐵鋼等ニ關シ陸海軍共ニ意見一

致シ相互ニ協調シテ不足勝チノ資材ヲ一元的ニ運営シ國防作
戰ノ目的ヲ達成セントスル機運ヲ生シタル近來ノ快事ニシテ
特ニ會上申上ク

一、第(2)第(3)議願ノ檢討

兩案ハ関連スルヲ以テ一括檢討スルコトトセリ

大蔵大臣

兩案ヲ勸案スルニ第(3)ノ作戰準備ト外交トヲ平行的ニ實施ス
ルヲ可トス

現在ニ於テハ外交交渉ヲ成功セシムルニハ帝國力毅然タル態
度ヲ以テ臨ム外途ナキカ如シ

參謀總長

作戰開始ハ再三申述ヘタル如ク十二月初頭ヲ可トス然ラハ現
ス日時ハ一ヶ月ナリ此間ニ外交交渉ヲ以テ日米國交調整セン
トスルハ過去ノ事實ニ徴スレハ殆ント可能ト信セララルヲ以
テ寧ろ此際開戰ヲ決意シ第(2)案ニ基キ外交施策ハ舉ケテ作戰
開始ノ名目把握及企圖ノ秘匿ニ置クヲ適當トス

參謀總長

外交交渉ヲ斷念シテ皇國興亡ノ岐ルル作戰ニ重點ヲ置キ直チ
ニ開戰ヲ決意セラレ度シ

軍令部次長

十一月二十日ヲ武力發動時機トシ之ヲ規準トシテ一切ヲ律セ
ラレ度シ

外務大臣

外交成功セハ斷然武力行動ヲ中止スルコトヲ要望ス

本問題ニ就キテハ純然上ノ要求ト外交上ノ要望トノ間ニ本質的相違アリ容易ニ決セザリシカ結局十一月三十日一杯中ニ發令セハ武力行動ノ中止ヲ可能トスヘキニ意見一致シ若シ一部ニ於テ武力衝突發生スルモ之ハ兩國ノ戰爭トセス局部的紛争ト見做シ措置スルコトニ決ス

結局左ノ如キ見解ニ一致ス

- (1) 作戰準備ハ續行ス
- (2) 外交上ノ經緯ニテ途中ノ進退ヲ左右セス
- (3) 外交成功シテ中止命令ヲ發スルコトアリ(十一月三十日即チ

十二月一日午前零時迄)

總帥部ハ右ノ場合萬全ヲ期ス

- (4) 一部衝突ノ可能性アリ

右ノ場合紛争トシテ措置スルモ之方原因トナリテ戰爭ト化スルコトナキヲ保セス

外務大臣ヨリ作戰準備ト外交トヲ平行スル主ニ於テ從來ノ外交經過ヲ見ルニ單ニ之ヲ踏襲スルノミニテハ益ク成功ノ望ナシ就テハ問題ヲ狭クシ少クトモ成功ノ見込アルモノトセラレ度シトテ一案ヲ提示ス

本案ハ支那事變ノ處理ヲ全然除外シアルヲ以テ假令日米合意成立スルモ朝樞ヲ將來ニ強スモノナリトテ異論アリ結局「日支間ノ和

平成立ヲ妨害セサルコト」ヲ要求スルコトトシテ意見一致ス

結論

以上ヲ以テ一應各案ノ検討ヲ終リタルヲ以テ各案ノ比較研究ニ移ル

(4) 臥薪嘗膽案

物資 前述ノ通り現代ニ於テハ日清戦争後ノ如クニ成立ス

國民精神 現在ノ不安定ノ事態ヲ横行スルコトハ國民志氣ヲ沈

滞シテ到底永年月ノ臥薪嘗膽ハ不可能ナルヘシ

作戦 三年以後ニ於テハ和戦ノ機ヲ米國ニ委シ戦ハスシテ

(5) 臥薪嘗膽案ノ外ナシ

但シ此場合米國カ我ヲ來攻セサルコトアルヘシトノ見込ナキニアラス

外交 國際情勢ノ推移我ニ有利ニナルキ予斷シ得ス

支那事變解決 蔣政権ハ存続シテ根本的和平ノ公算少シ

(2) 開戦ヲ決意シ作戦準備ト外交トヲ平行スル案

物資 相當困難ニシテ三年以後特ニ航空揮發油ニ於テ不安

アリ然レトモ南方物資ヲ取得シテ自存ヲ保全スルコ

トヲ得ヘシ

國民精神 非常時局ニ當面シテ日本國民ノ眞面目ヲ發揮シ過去

四年ノ日支事變ニ對スルカ如キコトナク眞ニ舉國一

致ノ体容ヲ示スヘシ

但シ戦争長期ニ亘ルニ從ヒ政府ハ特ニ精神作興ノ措

置ヲ要ス

作 戰 三年以降米國ノ優勢ナル主力海軍ト決戦セサルヘカ

ラサル危険ヲ藏ス

但シ南方要點ヲ確保シ之ニ對應ノ策ヲ講シ得ヘシ

外 交 獨伊トノ連繫ヲ強化シ得ヘシ

但シ眞ニ信賴シ得ルヤ否ヤハ常ニ警戒ヲ要ス

支那事變 一時蔣政権ノ志氣ヲ向上スヘシ

但シ封鎖ノ強化ニ伴ヒ之ヲ弱化セシメ迷ニ屈伏セシ得

右兩案共物資ニ關シ三年以降危険ヲ藏シ後者ニ於テハ長期戦ニ於

テ敵ヲ屈服セシムル確算ナキ危険アリ、前者ニ於テハ戦ハスシテ

屈スルノ屈辱アリ

兩論容易ニ決セサリシモ結局臥薪嘗膽ノ不可能ナルコトニ認識一

致シ此際遂後迄外交交渉ノ妥結ニ勉ムルト同時ニ作戰的要領ヲ重

視シ十二月初頭ノ戦機ヲ失ハサル着意ノ下ニ別紙ノ通り衆議一決

セリ

尙開戦名目ノ把握、日米戦争ヲ終末セシムル施策等ニ就キ研究中